

静岡県立高等学校における今後の在り方検討



生徒

静的・直線的・
固定的・受動的な
学習システム
(OECD ラーニング・コンパス
(2019より))

状況の変化

- コロナ禍等による変化や不確実性
- ICTを活用した授業の日常化
- 国際的・地球的課題への意識の高まり
- 個人や社会が望む未来(well-being)に向け行動できる人材が必要

検討の視点

- 生徒一人ひとりに応じた効果的な学習
- これまでの学びと先端技術の組み合わせ
- 探究学習・地域と連携した学習の推進
- 「well-being」実現に向けた担い手育成

生徒の可能性を引き出す
「個別最適な学び」
社会性・協調性を育む
「協働的な学び」

学校

固定的・階層的
な学校配置
適正規模(6~8
学級)を前提とし
た再編整備

状況の変化

- 多様な学びを生む環境の整備が必要
- 私立高校の授業料の実質無償化
- 人口減少、過疎化の急激な進行
- ICTによる距離を超えた学びの可能性

検討の視点

- 再編整備以外の多様な選択肢の提示
- 公立・私立高校のwin-winの関係の構築
- 小規模校の教育内容を充実させる具体的手法
- ICT活用による学校間連携等の推進

多様な選択を可能とする
フラットな学校配置
小規模校においても
教育の質を保障

地域

様々な教育課題
を学校だけで
解決(自前主義)

状況の変化

- 学校だけで解決困難な諸課題の急増
- 教員の多忙化の更なる進行
- 小規模校再編への地域の様々な意見
- 地域活性化に貢献する担い手不足

検討の視点

- 地域・企業等との連携強化と役割分担
- 地域の意見を反映させる仕組みづくり
- 学校と地域をつなぐ人材の確保・育成

学校と地域・産業等との
連携を強化し、地域資源
を生かした学校づくり

「地域とともに多様性を育む」教育の実現・実践

未知な環境の中でも、自分と社会が望む未来に向けて行動する子どもたちの育成